

平成 25 年度第 3 回常務理事会議事録

日 時： 平成 25 年 10 月 4 日（金） 14：55～16：55

会 場： ステーションコンファレンス東京 605BC

出席者：

理事長：小西 郁生

副理事長：岩下 光利、平松 祐司

常務理事：青木 大輔、苛原 稔、加藤 聖子、吉川 史隆、木村 正、藤井 知行、峯岸 敬、
八重樫 伸生、吉川 裕之

監 事：落合 和徳、嘉村 敏治、吉村 泰典

第 68 回学術集会長：井坂 恵一

特任理事：種部 恭子、南 佐和子、宮城 悦子

理事会内委員会委員長：片渕 秀隆、工藤 美樹、久保田 俊郎、竹下 俊行、水沼 英樹、
水上 尚典

幹事長：澤 倫太郎

副幹事長：阪埜 浩司

幹 事：上田 豊、梶山 広明、岸 裕司、北澤 正文、桑原 章、榊原 秀也、
佐藤 豊実、下平 和久、関根 正幸、高倉 聡、多賀谷 光、永瀬 智、西 洋孝、
西ヶ谷 順子、増山 寿、松村 謙臣、矢幡 秀昭、山下 隆博

総会議長：佐川 典正

総会副議長：内田 聡子、清水 幸子

事務局：桜田 佳久、青野 秀雄

14：55 理事長、副理事長、常務理事の総数 12 名のうち全員が出席し、定足数に達しているため、小西郁生理事長が開会を宣言した。小西郁生理事長が議長となり、議事録署名人として、理事長、監事の計 4 名を選任し、これを承認した。

I. 平成 25 年度第 2 回常務理事会議事録（案）の確認

原案通り、承認した。

II. 業務担当常務理事報告

1) 総 務（岩下光利副理事長）

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向

①齊藤幹名誉会員（千葉）が 8 月 18 日にご逝去された。（千葉地方学会から 9 月 2 日報告受領）

②加納泉功労会員（愛知）が 9 月 18 日にご逝去された。（弔電手配済み、供花は辞退）

③鈴木崇夫功労会員（愛知）が 9 月 25 日にご逝去された。（弔電、供花手配済み）

(2) 最高裁判所からの鑑定人候補者の推薦依頼について

8 月 23 日付の依頼案件については、鑑定人推薦委員会での検討の結果、鑑定人候補者を推薦した。

(3) 「産科医療補償制度の対象拡大に関する要望」を、日本医師会、日本産婦人科医会、日本小児

科学会、日本助産師会など9団体連名で厚生労働大臣に提出した。[資料：総務1]

(4) 日本救急医学会に提出した「災害時におけるトリアージタグの向上についての要望」について回答があり、本件の連絡役として竹田省先生を推薦した。[資料：総務2]

(5) 若手育成委員会の主務幹事について、西ヶ谷順子先生を解委嘱し、梶山広明先生に委嘱することとしたい。

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

(6) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会

①MRガイド下集束超音波治療器の検討小委員会を設置し、以下の各先生に委員を委嘱したい。

委員長：久保田俊郎先生

委員：井坂恵一先生、竹下俊行先生、馬場一憲先生、矢野哲先生

久保田俊彦委員長「厚生労働省から小西理事長あてに依頼の電話があった。第1回小委員会を10月15日に開催し、安全性や保険収載の問題等を検討したい。」

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

②「ヤーズ配合錠」に関する「患者携帯カード」についての意見提出

生殖・内分泌委員会から「患者携帯カード」の記載内容に関してのみ助言を行った。

「本邦におけるEP合剤による血栓症の頻度の調査および血栓症リスクに対する安全対策」について生殖・内分泌委員会で新たに小検討委員会（委員長：檜原久司先生）を設置した。

(ロ) 婦人科腫瘍委員会

①9月12日に厚生労働省あてに「子宮頸がん予防ワクチンの接種勧奨再開審議に関する要望書」を提出した。[資料：総務3]

②薬害オンブズパースン会議より、子宮頸がんワクチンに関する要望書を受領した。これに対しては、厚生労働省、製薬2社および日本産婦人科医会にも出されている。

[資料：総務3-1]

小西郁生理事長「本会はこの問題ですでに厚生労働省に対して要望書を出しており、この薬害オンブズパースン会議からの要望書には対応しないこととしたい。」

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

③ベバシズマブに対する診断群分類包括評価の取扱いに関する要望書を、日本婦人科腫瘍学会と共同で厚生労働大臣あて提出したい。抗悪性腫瘍剤「アバスチン」の出来高払いの取扱いに関する要望である。[資料：総務3-2]

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

木村正理事「これについて外科はどのように対応しているのか。」

青木大輔委員長「確認する。」

(ハ) 周産期委員会

①厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等克服研究事業 血液凝固異常症に関する調査研究班作成の妊娠合併ITP診療の参照ガイド案に対する意見募集を本会ホームページに掲載した。

②東京慈恵会医科大学と共同研究を行っていた「産科医療の質と向上へのヒント—産婦人科診療

ガイドライン実施率の観点から」結果報告書に対する意見募集を本会ホームページに掲載した。

③新生児の黄疸予防対応について [資料：総務4]

水上尚典委員長「この手法は効果が出る可能性もあり、施設内の倫理委員会を通して、臨床研究として行えばよいのではないか。」

加藤聖子理事「増崎英明周産期委員長とも相談したが、福岡産科婦人科学会でこの手法を発表された先生は倫理委員会の役割やインフォームドコンセントについて十分に理解されていないようなので、常務理事会でご了承いただけるのならば、地方学会からそれについてお伝えするなどの対応を取るのがよいと思う。今回の演題については、地方学会が却下すべきとの意見もあったが、地方ではインフォームドコンセントなどの規定はない。地方での演題採択レベルをどう考えるのかについて学術委員会等で検討していただければありがたい。」

小西郁生理事長「地方学会でコンタクトいただき、臨床研究として進めていただくのがよいと思う。」

(二) 女性ヘルスケア委員会

① ホルモン補充療法ガイドライン2012頒布状況について

9月25日現在、入金済7,202冊、校費支払のため後払希望 37冊。

②女性アスリートのヘルスケア小委員会委員について、以下の先生方に委嘱したい。

委員長：久保田 俊郎先生（東京医科歯科大学）

委員：百枝 幹雄先生（聖路加国際病院）

武田 卓先生（近畿大学東洋医学研究所）

尾林 聡先生（東京医科歯科大学）

能瀬 さやか先生（国立スポーツ科学センター、メディカルセンター）

協力者：難波 聡先生（埼玉医科大学）

目崎 登先生（功労会員）

林 邦彦先生（群馬大学）

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

(7) 学会・医会ワーキンググループを9月30日に開催した。

岩下光利副理事長「eラーニングなど医会でもe医学会と同様の動きがあり、インフラの共通化の可能性などが話題となった。」

(8) 平成26年度日本産科婦人科学会予定表(案)について、特に修正意見がなければ、これを確定させて会場等の手配にかかりたい。[資料：総務5]

(9) 第69回学術集会長の立候補を9月30日に締め切ったが、1名の立候補があった。

〔II. 官庁関係〕

(1) 厚生労働省

①厚生労働省慢性の痛み対策研究事業では、HPVワクチン接種後の副作用について適切な医療を

提供するための診療体制を整備した。 [資料：総務5-1]

②厚生労働省予防接種ワクチン分科会風しんに関する対策委員会に平原史樹先生が出席した。

[資料：総務5-2]

水上尚典委員長「従来のやり方では風しんを根絶することはできない。10年後にはまたCRSが問題になる。米欧では風疹追放を進めており、各国でロードマップを持っている。本会としては風しん追放を推進すべく、厚生労働省に強く言って行くべきではないか。」

小西郁生理事長「この委員会に参加している平原史樹先生と久保隆彦先生の報告を待って本会としても対応していきたい。」

[Ⅲ. 関連団体]

(1) 日本医学会

①日本医学会を通して、厚生労働省医政局総務課より各都道府県等の衛生主管部長あてに病院または医師が常時3人以上勤務する診療所の専属の薬剤師の設置義務についての通知を受領した。

[資料：総務5-3]

②日本医学会を通して厚生労働省より、「国家検定制度改正のお知らせについて」「生体内の圧力の計量単位に係る計量単位令の改正について」「ヒト幹細胞を用いる臨床研究に関する指針の改正等について」の通知を受領した。[資料：総務5-4]

(2) 日本女性医学学会

2013年度メノポーズ週間（2013年10月18～24日）への後援名義使用許可依頼を受領した。経済的負担はなく、これを承認した。

(3) 予防接種推進専門協議会

同協議会より、リストアップされた開発優先度の高いワクチンに優先順位を付けるように依頼があり、川名敬先生に叩き台案を作成いただいた。[資料：総務6]

川名敬先生の案につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4) 日本看護協会

同協会より、「助産ビジョン(案)」に関する有識者ヒアリングを11月9日に開催するにあたり、本会に2名の先生の出席依頼があった。本会から久保隆彦先生と藤森敬也先生に参加をお願いした。[資料：総務7]

岩下光利副理事長「本件については医会には慎重論があり、出席の先生方にはその旨を伝えている。」

(5) 電子母子健康手帳標準化委員会

周産期電子カルテ、電子母子健康手帳の普及を目指して発足した同委員会に本会からも委員を出して支援してほしいとの依頼があった。竹田省先生に参加をお願いした。[資料：総務8]

(6) 真菌症フォーラム

同フォーラムから「深在性真菌症の診断・治療ガイドライン2014」に対するパブリックコメントの協力依頼があった。同フォーラムのURLにリンクさせ、パブリックコメントは直接真菌症フォーラムに提出していただく旨、本会ホームページ（一般ページ）に掲載することとしたい。

[資料：総務8-1]

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

〔IV. その他〕

(1) 山梨県上野原市議会に、HPV ワクチン接種事業の抜本的見直しを求める請願書などが提出され、市議会の一般質問でも資料が出された。この件について同市議会の服部議員より本会あてに問合せがあった。〔資料：総務9〕

(2) 福島県二本松市長が本会に来訪し、岩下光利副理事長に対して社会保険二本松病院への医師派遣要望書を提出した。本会からの回答を出すこととしたい。〔資料：総務9-1〕

木村正理事「藤森敬也先生にプレッシャーが掛かりすぎないように配慮してほしい。」

岩下光利副理事長「一部表現を修正して送付する。」

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) 日本糖尿病・妊娠学会および日本糖尿病財団より「糖尿病の検出及び発症予防事業」（2013年12月15日、高知県にて開催予定）の後援名義使用依頼があった。経済的負担はなく、これを応諾したい。

(4) 日本家族計画協会より、第2回「知っているようで知らない性の健康セミナー」（2014年1月19日、UDX秋葉原）の後援名義使用依頼があった。経済的負担はなく、これを応諾した。

2) 会 計（吉川史隆理事）

(1) 10月4日10時より、会計担当理事会を開催した。

吉川史隆理事「会計担当理事会では新規プロジェクトの本会会計に与える影響について協議した。現時点では対応可能との判断となったが、今年度は補正予算を組むこととなった。」

3) 学 術（峯岸敬理事）

(1) 学術委員会

(イ) 平成25年度日本医師会医学賞、医学研究奨励賞の受賞者発表があり、慶應義塾大学の阪埜浩司先生が医学研究奨励賞を受賞した。〔資料：学術1〕

(2) プログラム委員会関連

(イ) 第66回学術講演会プログラム委員会

8月8日より一般演題の応募を開始、9月26日締切、9月27日～10月2日正午まで応募内容の修正期間であった。

(ロ) 第67回学術講演会プログラム委員会

特別講演演者推薦、シンポジウム担当希望者公募を機関誌65巻8号に掲載、期限は11月29日である。

(ハ) 第68回学術講演会プログラム委員会

シンポジウム課題公募を機関誌65巻8号に掲載、期限は11月29日である。

4) 編 集（藤井知行理事）

(1) 会議開催

- ①9月13日に和文誌編集会議ならびに JOGR 編集会議を開催した。
 ②10月4日に和文誌編集会議ならびに JOGR 全体編集会議を開催した。

(2) 英文機関誌 (JOGR) 投稿状況: 2013年投稿分 (9月20日現在)
 投稿数 879 編 (うち Accept 116 編, Reject 434 編, Withdrawn/Unsubmitted 153 編, Under Revision 44 編, Under Review 132 編, Pending 0 編, Expired 0 編)

(3) JOGR Associate Editor 公募について
 和文機関誌ならびに学会ホームページに公募案内を掲載するとともに各大学宛に公募ポスターを送付した (応募締切は10月31日)。
 選考に関しては和文誌編集会議において検討する予定である。

(4) 和文機関誌 66 巻特集について
 平成 26 年 3 月号から 5 月号について特集の掲載を予定している。
 なお 5 月号については詳細未定である。

3月号	<出生前遺伝学的検査>	取りまとめ: 関沢 明彦	
	胎児染色体異常スクリーニング	佐村 修	尾道総合病院
	胎児染色体とマイクロアレイ検査	山田 崇弘	北海道大学
	遺伝カウンセリングと倫理的課題	澤井 英明	兵庫医科大学

4月号	<産婦人科感染症>	取りまとめ: 藤井 知行	
	サイトメガロ	山田 秀人	神戸大学
	HPV	川名 敬	東京大学
	HTLV1	齋藤 滋	富山大学

(5) JOGR の増ページについて

現行の JOGR は、年間出版ページ数 1,200 ページ / 年間出版費 900 万円であるが、投稿数の増加により 2,000 ページへの増ページが必要な状況となっている。ワイリーによれば、その場合の年間出版費は 1,300 万円となるが、増ページについて前向きに進めたい。

藤井知行理事 「印税を 10% から 15% とすることで負担軽減を図りたい。」

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

(6) 再来年の AOFOD 会長より増刊号発刊の要望が出された。増刊のための費用はかかるが、発刊方向で進めたい。[資料: 編集 1]

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

岩下光利副理事長 「これらの見積りについて、消費税はどのようになるのか。」

藤井知行理事 「ワイリーは外国法人なので日本の消費税は適用されないとのことである。」

5) 渉外 (木村正理事)

[FIGO 関係]

(1) コロンビアとボリビアの FIGO 理事が日本の医療事情視察ツアー (日程: 11 月 25 日~12 月 2 日) に参加するのに伴い、大阪産婦人科国際臨床セミナーを開催し、両理事が講演を行う。

[資料: 渉外 1]

(2) 木村正渉外担当常務理事が FIGO Working Group on "Challenges in the care of mothers and infants during labor and delivery" の委員に選出された。 [資料: 渉外 2]

[AOFOG 関係]

(1) AOCOG2015 (2015 年 6 月 3~6 日にマレーシアで開催) でのスピーカーの推薦依頼を受領した。

[資料: 渉外 2-1]

小西郁生理事長 「スピーカーの推薦は学術と渉外で相談して進めてもらいたい。」

[KSOG 関係]

(1) The 99th Annual Congress of KSOG 2013 & the 18th Seoul International Symposium(9 月 27~28 日、於: ソウル)に、本会より、小西郁生理事長、峯岸敬第 67 回学術集会長、木村正渉外担当常務理事、阪埜浩司幹事、および若手医師 5 名を派遣した。 [資料: 渉外 2-2]

嘉村敏治監事 (日韓ジョイントシンポジウム日産婦側世話人) 「次回、日韓ジョイントシンポジウムは 2015 年の第 67 回学術集会の際に開催予定であり、テーマは周産期である。」

[TAOG 関係]

(1) The 53rd Annual Congress of TAOG 2014 & International Young Doctors' Exchange Program (2014 年 3 月 8~9 日、於: 台北)に、本会役員として岩下光利副理事長、木村正渉外担当常務理事、八重樫伸生教育担当常務理事を派遣の予定である。

[その他]

(1) 小林浩理事に渉外担当に加わっていただき、今後のドイツとの交流について検討を進めたい。
木村正理事 「先方の理事会に契約書案を送っており、2014 年秋から交流が開始される予定である。」
本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2) 本会役職の英語表記の変更について [資料: 渉外 3]
本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

6) 社 保 (青木大輔理事)

(1) 会議開催

10月4日、常務理事会後、第3回社保委員会を開催予定である。

- (2) 過多月経を適応としたレボノルゲストレル放出型子宮内システムの早期承認に関する要望書を、日本生殖医学会、日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会の連名で厚生労働省医薬食品局審査管理課長あてに提出した。(9月20日) [資料：社保1]

7) 専門医制度 (吉川裕之理事)

(1) 第3回中央委員会について

第3回中央委員会を9月23日に開催し、平成25年度専門医認定二次審査結果、専門医資格更新・再認定審査結果、卒後研修指導施設指定審査結果を協議した。

①専門医認定二次審査

申請者：493名、受験者：筆記試験487名(東京265名、大阪222名)、欠席者：4名、面接試験419名(東京229名、大阪190名)、欠席者：3名、合格者：421名(東京231名、大阪190名)、不合格者：68名(東京36名、大阪32名)であった。 [資料：専門医制度1、2、3]
合格率は86.0%となった。合格者については機関誌65巻11号と本会ホームページに掲載する予定である。

②専門医資格更新審査

更新申請は1,631名で、申請後退会者1名を除き、合格は1,628名、不合格2名であった。 [資料：専門医制度4]

③専門医資格再認定審査

- ・再認定申請は46名で、申請後退会者1名を除き、合格は45名であった。 [資料：専門医制度5]
- ・新規申請者・更新申請者・再認定申請者ともに、申請者あてに9月20日付で審査結果を通知し、新規申請合格者は専門医登録が済み次第認定証を送付する。更新申請合格者・再認定申請合格者は地方委員会あてに10月1日付で認定証を送付する。

④資格更新延期願

資格更新延期願申請は11名あり、延期可は11名であった。 [資料：専門医制度4]

⑤専攻医研修指導施設指定審査

- ・新規申請施設は10施設で、合格施設8施設、不合格施設2施設であった。 [資料：専門医制度6]
- ・更新申請施設は54施設で、合格施設31施設、不合格施設4施設、保留19施設であった。 [資料：専門医制度7]
- ・なお、更新合格施設のうち施設区分が「総合型」から「連携型」になる施設が3施設あった。
- ・新規指定申請施設、更新申請合格施設は、施設長あてに10月1日付で指定証を送付する。

吉川裕之理事「更新申請施設については、現在、手術数や論文数などについて精査している施設があり現時点では保留となっているが、確認されれば保留から合格となる。それらが確認できない場合は1年間のうちに提出されれば合格となる。」

平松祐司副理事長「更新申請は地方学会でチェックして上がってくるルールではないのか。」

吉川裕之理事「地方にもよるが、判断を中央に委ねるといって上がってきているものもある。地方段階で論文数が足りないことで不合格にしたケースの有無については確認する。」

⑥専攻医指導施設区分変更申請審査

- ・専攻医指導施設区分の連携型から総合型への変更申請のあった施設は4施設で、変更可施設は3

施設、変更不可施設は1施設であった。 [資料：専門医制度8]

施設区分一覧は学会ホームページに掲載する予定である。

(2) 日本小児科学会

日本小児科学会専門医試験運営委員会より「専門医試験における論文執筆経験の取り扱いについて」のアンケートを受領した(9月19日)。事務局で回答を記載し主務幹事確認のうえ回答した。

[資料：専門医制度9]

(3) 日本専門医制評価・認定機構

同機構より、12月3日開催の臨時社員総会の案内状を受領した。本会からは吉川裕之委員長が出席予定である。[資料：専門医制度10]

小西郁生理事長「日本専門医制評価・認定機構は、一旦、一般社団法人となり、その後新たな第三者機関が立ち上がると発展的になくなる予定である。新たな第三者機関のなかの総合診療専門医に関する委員会については、吉川裕之先生が委員となる予定である。」

吉川裕之理事「福島への支援に関しては、1か月未満で10点シール1枚、1か月以上で2枚とし、研修期間に含めることを中央専門医制度委員会でも確認した。これは5月派遣分から適用される。」

8) 倫理委員会 (苛原稔委員長)

(1) 本会の見解に基づく諸登録 (平成25年8月31日)

①ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：45研究

②体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：578施設

③ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：578施設

④顕微授精に関する登録：521施設

⑤非配偶者間人工授精に関する登録：15施設

(2) 着床前診断に関する臨床研究申請・認可について

9月20日現在申請344例 [承認300例、非承認4例、審査対象外23例、取り下げ2例、照会13例、審査中2例] (承認300例のうち8例は条件付)

(3) 「生殖補助医療の法制化に関する骨子素案」ならびに「生殖補助医療により出生した子の親子関係に関する民法の特例に関する法律骨子素案」に対する日本産科婦人科学会からの要望書について [資料：倫理1]

小西郁生理事長「精読いただき、意見があればお伝えいただきたい。」

(4) 日本生殖医学会がまとめた「未受精卵および卵巣組織の凍結・保存に関するガイドライン」について、同学会はホームページで広くパブリックコメントを求めると共に、本会に対してガイドラインについての検討・審議の要請があった。本件は倫理委員会にて対応することとした。

[資料：倫理2]

苛原稔委員長「本会としても積極的にコメントする必要がある、施設認定を含めた本会のガイドラインを早急に作りたい。またAIDを含めて現在の会告の見直しを行いたい。」

吉村泰典監事「卵子凍結については、寝た子を起こすとの批判があることも承知しているが、一方ですでに卵子バンクが展開されている現状があり、これを野放しにしてよいのか、との批判もあるので、日本生殖医学会でガイドラインを作って本会で検討していただきたい、とした。現実には医者が関与しない所で行われているケースもあり、また10年後まできちんと施設が維持され保存が適正に行われるか、など施設認定を含めて検討いただきたい。」

小西郁生理事長「まず倫理委員会で基本方針を出していただき、理事会等で協議していきたい。」

(5) 着床前診断に関する臨床研究申請データの整理・報告のため人材を臨時雇用することについて本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

(6) 会議開催

- ①11月5日に「平成25年度第4回着床前診断に関する審査小委員会」を開催する予定である。
- ②11月19日に「平成25年度第4回倫理委員会」を開催する予定である。

- (7) 母体血を用いた出生前遺伝学的検査に関する臨床研究施設認可状況—9月18日現在計29施設
- 9月13日付 慶應義塾大学病院
 - 9月18日付 四国こどもとおとなの医療センター
 - 9月18日付 日本医科大学付属病院

苛原稔委員長「会員のなかには、NIPTを臨床研究として承認している一方、どうして本会はPGSについて取り上げないのか、との意見もあり、PGSに対する本会の姿勢を今後、倫理委員会で検討したい。公開シンポジウムなどを通して一般の意見も聞きつつ進めていきたい。」

小西郁生理事長「これも倫理委員会で基本方針を出していただき、本会として進めていきたい。またNIPTについては、本会のコンセンサスとして国立成育医療研究センターにダウン症の児が生まれた時のケアシステムの立ち上げをお願いしたいと思う。」

9) 教育 (八重樫伸生理事)

(1) 会議開催

- ①10月4日に用語集・用語解説集編集委員会を開催する予定である。
- ②専門医認定筆記試験問題作成委員会については下記の日程で開催する予定である。

腫瘍	第2回	11月2日	於：大阪
生殖／周産期／女性医学	第2回	11月8日	於：東京
腫瘍／周産期	第3回	11月29日	於：東京
生殖／女性医学	第3回	12月6日	於：東京

(2) 「産婦人科研修の必修知識2013」について

- ①電子版(iOS版並びにAndroid版タブレット端末専用)
9月20日現在、必修知識単体 133件、用語集付き 113件、合計246件の申込みを受け付けた。
- ②書籍版頒布状況
9月25日現在、入金済 1,122冊、校費支払のため後払希望 18冊。

(3) 「用語集・用語解説集 改訂第3版」について

- ①電子版(iOS版並びにAndroid版タブレット端末専用)
9月20日現在 25件の申込みを受け付けた。
- ②書籍版頒布状況について
9月25日現在、入金済 1,913冊、校費支払のため後払希望 51冊。

(4) 「産婦人科研修の必修知識2011」頒布状況について

9月25日現在、入金済6,973冊

(5) 「若手のための産婦人科プラクティス」頒布状況について

9月25日現在、入金済 2,177冊、校費支払のため後払希望 13冊。

(6) 「解説文付き産婦人科研修の必修知識2014練習問題集(仮称)」について

産婦人科研修の必修知識2013の練習問題に新たに練習問題を追加し、さらに解説文を掲載した

「解説文付き産婦人科研修の必修知識 2014 練習問題集 (仮称)」を 2014 年 6 月の発刊を目処に準備を進めており、20 大学教授に依頼しご推薦いただいた練習問題解説文執筆者に問題を振り分ける予定である。

単に解説文を執筆していただくだけではなく、専門医試験受験後間もない方の目から見た不適切問題のピックアップもお願いする予定である。資料として解説文執筆依頼予定者一覧を提出する。また、解説文のとりまとめ役として第 7 回産婦人科サマースクール若手医師企画参加者より立候補いただいた下記の 3 名を依頼したい。

中川 慧先生(大阪大学)、宮本雄一郎先生(東京大学)、湯澤 映先生(弘前大学)

(7) 「産婦人科研修の必修知識 2015」について

「産婦人科研修の必修知識 2013」までは 2004 年版からの目次建てを踏襲してきたが、専門医制度カリキュラムに沿った形に変更し、重複部分の削除や新たな執筆、内容の確認を各大学にお願いをしたい。この「産婦人科研修の必修知識 2015」が今後の改訂の基礎となるものと位置し、専門医認定筆記試験問題受験者の必携の書として確立したい。

八重樫伸生理事「新規・修正項目と内容を確認いただく項目の 2 項目を、各大学の責任のもとに書いていただくようお願いする予定である。」

(8) 関連学会等での書籍販売

- ①10 月 19 日 (土) 開催、第 28 回日本女性医学学会学術集会会場(於：東京 京王プラザホテル)
- ②10 月 27 日 (日) 開催、第 126 回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会(於：静岡 アクトシティ浜松)

(9) 「西日本高速道路エリア・パートナーズ倶楽部」奨学金 平成 26 年受給開始者募集について
標記の平成 26 年受給開始者募集を行いたい。ポスターならびに応募要項等を大学(医学部)長、産婦人科教授、大学学生課に同文を送付する(締切：12 月 10 日)

応募対象者：西日本地域大学に在籍の現時点で医学部 4~6 年生

給付人数：24 名

給付金額：1 名あたり 100 万円/1 年

給付年数：2 年間

(10) 2015 年 ACOG 派遣予定者について

8 名の応募があったが、書類選考のうえ一次審査通過とした。二次審査は第 66 回日本産科婦人科学会学術講演会 International Session の発表を経て 5 名とする予定である。

10) 地方連絡委員会 (平松祐司副理事長) 特になし

II. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) 広報委員会 (加藤聖子委員長)

(1) 会議開催

11 月 7 日に第 2 回広報委員会を開催予定である。

(2) JOB-NET 公募情報について [資料：広報 1]

(3) ホームページについて

①アクセス状況について [資料：広報 2]

②会員専用ページに掲載していたジャパンワクチンバナーが 8 月末で掲載終了となった。

③医学生・研修医向けコーナーの「産婦人科の魅力」のページに、今期の 4 専門委員会委員長によ

る記事を掲載し、各サブスペシャリティの魅力をアピールした。

(4) ACOG Website 会員専用ページログイン人数について [資料：広報3]

2) 未来ビジョン委員会 (平松祐司委員長) [資料：未来ビジョン1]

(1) 新入会員数動向調査 [資料：未来ビジョン1-1]

(2) 2013年度の研修先 [資料：未来ビジョン1-2]

(3) 全国医局長 Plus One 会議および情報交換会

(4) 2014年度プロジェクト“Plus One”産婦人科セミナー

平松祐司委員長「来年度については、連合地方部会単位を基本として開催意向があるかを連合地方部会代表理事の先生方に対して問合せを行っている。」

(5) 日産婦学術講演会での学生・初期研修医の発表セッション

吉川裕之第66回学術集会長「学術集会第2日目夕方にセッションを設け、4テーマについて各3グループに発表いただき1グループを表彰する予定である。現在の5年生を対象としている。」

平松祐司委員長「これに係る費用については参加する各大学が負担することとしたい。」

(6) WATOG 検討委員会の設立について [資料：未来ビジョン1、1-3]

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

(7) 女性の健康手帳検討小委員会の設立について [資料：未来ビジョン1]

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

(8) 広報誌 Anetis の有効利用 [資料：未来ビジョン1]

本件につき特に異議はなく、全会一致で承認された。

(9) 新しいプロモーションサイト作成 [資料：未来ビジョン1、1-4]

平松祐司委員長「内容がまとまり次第、順次ご報告していきたい。」

3) 震災対策・復興委員会 (岩下光利委員長)

各大学産婦人科教授および医局長の先生あてに、9月5日に福島県医療施設への医師派遣のお願い(2回目)を出した。

岩下光利委員長「各大学からの応募動向をみると、来年6月頃までは派遣が可能な状況である。」

4) 診療ガイドライン委員会 (岩下光利学会側調整役)

(1) 産科編委員会 (水上尚典委員長)

① 「産婦人科診療ガイドライン—産科編2011」頒布状況について

9月25日現在、入金済15,652冊、後払希望29冊。

② 「産婦人科診療ガイドライン—産科編2014」電子版について

代表委員(水上尚典先生、板倉敦夫先生、大口昭英先生、村越毅先生)と杏林舎担当で電子版仕様についての打ち合わせを10月14日に開催する予定である。次回の常務理事会までに仕様ならびに予算についてまとめ、お諮りする予定である。

(2)産科編評価委員会（海野信也委員長） 特になし

(3)婦人科外来編委員会（八重樫伸生委員長）

- ①「産婦人科診療ガイドライン—婦人科外来編 2011」頒布状況について
9月25日現在、入金済11,838冊、後払希望8冊。

(4)婦人科外来編評価委員会（峯岸 敬委員長） 特になし

5)コンプライアンス委員会（工藤美樹委員長）

- (1)日本医学会利益相反委員会より、11月15日に日本医師会館小講堂で開催される第4回日本医学会分科会利益相反会議の案内を受領した。阪埜浩司副委員長が出席予定である。
[資料:コンプライアンス1]

6)医療改革委員会（海野信也委員長）

- (1)第10回拡大医療改革委員会
第10回拡大医療改革委員会を平成26年1月26日（日）に開催予定である。

7)男女共同参画・女性の健康週間委員会（片渕秀隆委員長）

- (1)会議開催
11月15日に第2回男女共同参画・女性の健康週間委員会を開催の予定である。
- (2)地方学会担当市民公開講座について [資料:男女共同1]
- (3)女性の健康週間2014について
①1月17日にステーションコンファレンス東京にてプレスセミナーを開催の予定である。
②3月5日、6日にステーションコンファレンス東京にて丸の内キャリア塾セミナーを開催の予定である。
- 小西郁生理事長「本会で検討予定の女性アスリートの健康問題については、時間的に可能であればここでも取り上げてほしい。」
- (4)平成25年度産婦人科専門医試験合格者に「産婦人科医師の就労状況についての調査」ご協力をお願いを発送した。 [資料:男女共同2]

8)若手育成委員会（齋藤滋委員長欠席につき、梶山広明主務幹事）

- (1)会議開催
第7回産婦人科サマースクール若手医師企画反省会を10月11日に開催する予定である。
- (2)産婦人科サマースクールに関連して
①第7回産婦人科サマースクールの参加応募の際に、学会からの情報提供の要否を伺い、必要と回答された方についてリストアップを行った。
②産婦人科医師リクルートに役立てていただけるように、各大学教授宛に第7回産婦人科サマースクール参加者リストの送付希望を伺い、対応している（自施設所在都道府県または所属連合学会分）。
③2013アネティス秋号「産婦人科サマースクール特集」のPDFを第7回産婦人科サマースクール参加者にメールにて送信した。

(3)産婦人科スプリング・フォーラム [資料:若手育成1]

平成26年3月開催のスプリング・フォーラムに関しては、現在プログラム概要をまとめており、11月下旬に募集を開始する予定である。
基本的には公募としたいが、スプリング・フォーラムの認知度がそれほど高いとはいえない現状を鑑み、各地方学会へ推薦のご協力をお願いしたい。

9) 臨床研究審査委員会 (水沼英樹委員長) 特になし

10) 医療安全推進委員会 (竹田省委員長) 特になし

11) 公益事業推進委員会 (竹下俊行委員長) 特になし

12) 情報管理委員会 (久保田俊郎委員長)

- (1) 諸隈誠一先生より申請のあった「大気汚染物質の妊娠・分娩および出生児に及ぼす影響に関する研究」および「母体年齢、喫煙、自然因子(季節変動、月齢、出生時刻など)等と妊娠・分娩合併症・児合併症との関連」についての情報管理委員会審査報告書を提出した。
[資料:情報管理1]

13) 婦人科領域のロボット支援下腹腔鏡手術に関する委員会 (井坂恵一委員長)

(1) 会議開催

10月4日に第4回婦人科領域のロボット支援下腹腔鏡手術に関する委員会を開催した。

井坂恵一委員長「婦人科悪性腫瘍に対するロボット支援腹腔鏡手術に関する指針に加えて良性腫瘍についても同様のものを作ることで検討している。また婦人科悪性腫瘍の指針については会員ホームページに掲載予定だが、加えて機関誌にも掲載することでよいか。」

小西郁生理事長「機関誌にも掲載することで問題ないと思う。」

井坂恵一委員長「この指針は強制ではなく、ご協力いただきたい、ということを出したい。」

Ⅲ. その他

落合和徳監事「本日の日本医師会疑義解釈委員会で、本会から厚生労働省に要望書を出した新レシカルボン坐薬について協議した。出席していた厚生労働省の担当者からは、これについては検討する、とのコメントがあった。」

以上

